

秦野市公共施設再配置計画推進会議開催結果

会議名	■ 令和 5 年度 第 2 回 本部会		
	□ 令和 年度 第 回		プロジェクトチーム
	□ 令和 年度 第 回		ワーキンググループ
開催日時	令和 6 年 3 月 28 日（木）午前 10 時 ～ 午前 10 時 45 分		
開催場所	講堂		
出席者	内田副市長（総括責任者）	高橋副市長	佐藤教育長
	政策部長	総務部長	文化スポーツ部長
	こども健康部長	教育部長	高齢介護課長（代理出席）
	教育総務課長	教育総務課施設管理担当主任主事	
	事務局	行政経営課長 行政経営課課長代理	
議 題	1 みらいの学校整備指針（素案）について		
	2 その他		
配付資料	資料 1 「みんなで考えるみらいの学校整備指針」（素案）		
	資料 2 学校施設との複合化に向けた検討スケジュール		
会 議 結 果			
令和 5 年度のプロジェクトチームにおいて承認された「みらいの学校整備指針」（素案）及び今後のスケジュールの見直しについて付議した結果、全て承認され、推進会議として正式決定したもの。			
会 議 概 要			
1 みらいの学校整備指針（素案）について			
資料 1 に基づき、事務局から説明			
① 指針の22ページにある「図4-5」は、松田町にある松田小学校そのものである。整備の参考にしてもらいたい（内田副市長）。			
② 整備に当たっては、その時期のクラス数に合わせて施設の規模を決めると思うが、児童生徒数の減少が見込まれる中、将来クラス数が減った時に、その過剰な規模が新たな課題にならないか（高橋副市長）。 → 例えば、大根地区の整備は、全体の中で最初、一方、鶴巻地区は一番最後を予定している。2060年代後半としている鶴巻地区の整備予定時期が到来した際、そもそも学校を造る必要があるのか、という議論になるかもしれない。そうした場合に、大根地区の学校に余裕があれば、統合することなども考える必要がある（教育総務課長）。			
③ 一番の課題は、防災拠点の機能を、他の課題との兼ね合いでどのように考えていくのかということだ（内田副市長）。 → 学校運営協議会を設置しているところに対しては、一通り説明をしてきた。その中で、1中1小の地区と、1中2小、3小の地区では、全く反応が異なっている。末広小学校区の自治会長は、防災の拠点を意識した話をされていた。やはり、防災拠点としての機能については、慎重に考えていく必要があると認識している。逆に、1中1小の地区は、本当に理解が早く、特に通学距離が変わらないということが、保護者にとって受け入れやすいのではないかと思う（佐藤教育長）。			

④ 指針の13ページには、整備費用の試算の記載があるが、市民にとって、この531億円の重みは伝わるのか（政策部長）。

→ 昨年11月に開催したシンポジウムで、整備費用の全てが一般財源ではないということを強調したかどうか、との意見を受け、説明を追記した経過がある。

当然、学校整備に多額の費用が必要となることは、事実として理解してもらう必要があるが、全ての人が賛成するとは思っていない。少しずつ、理解者を増やしていきたい（教育総務課長）。

2 その他

資料2に基づき、事務局から今後のスケジュールの見直しについて報告

備考	
----	--